

第9回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 議事要旨

I 日 時 平成28年2月2日（火） 10:00～12:00

II 会 場 千葉市総合保健医療センター4階 会議室

III 出席者

（委 員）杉田委員、菊池委員、久保田ゆみこ委員、久保田尚史委員、野口委員、
田川委員、小林委員、今関委員、郡司委員、加瀬委員、入野委員、
桐岡委員、井山委員、岡田委員、金田委員、谷委員、櫻井委員 計17名
（事務局）発達障害者支援センター：仲村相談支援員、上田発達支援員、森巡回相談員
障害者自立支援課：柏原課長、塩原主査、矢田主事
千葉市療育センター：高橋事務局長

IV 配付資料

資料1・2	年度別実績報告一覧表（平成23年度～平成27年度）
資料3	平成26年度 事業報告
資料4	平成27年度 事業経過報告
資料5	千葉市発達障害等に関する巡回相談事業
資料6	事例検討（事例1、事例2）

V 議事概要

（1）平成26年度、事業報告について

事務局より、資料1～資料3に基づき説明し、質疑応答を行った。

（2）平成27年度、事業経過報告について

事務局より、資料4と併せて支援センターの活動を報告し、質疑応答を行った。

（3）千葉市発達障害等に関する巡回相談事業について

事務局より、資料5と合わせて巡回相談事業の活動を報告し、質疑応答を行った。

（4）千葉市の発達障害者支援について（事例検討）

加瀬委員より、事例を紹介し、検討を行った。

（5）その他

□ 議事要旨の確定方法について

事務局より、議事要旨について、座長の承認・署名をもって確定・公開することを提案し、出席委員多数の賛同により承認を得た。

VI 会議経過 別紙1のとおり

【別紙1】第9回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 会議経過

○ 事務局（上田）

～開会、資料確認等～

○ 柏原課長

千葉市障害者自立支援課長の柏原でございます。

本日はご多忙のところご出席頂きまして、まことにありがとうございます。また皆様方におかれましては、日頃より本市の障害者施策の推進にあたり、ご理解とご協力を頂いておりますことを、重ねて御礼申し上げます。

さてこの協議会も9回目を迎えました。発達障害者支援センターの活動の他、今年度の新たな取り組みである千葉市発達障害等に関する巡回相談事業の概要や経過についてもご報告を頂くことになっております。また、昨年に引き続き事例検討も議題とさせて頂きました。発達障害者やその家族が抱える問題や支援方法などを協議致しまして、共通の認識を深める機会として委員の皆様からご意見を頂戴できればと考えております。

今後も引き続き委員の皆様におかれましては発達障害者支援の充実に關しまして、ご指導、ご鞭撻を頂けますようお願いしたいと思います。

以上、簡単ではございますが開会前のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

○ 事務局（上田）

～新委員紹介～

続きまして、次第の4議題に入らせていただきます。以降の進行は杉田座長にお願い致します。

○ 杉田座長

皆さんおはようございます。これだけ関係機関の方々が来られており、意味のある会議を運営できればと期待をしております。では次第の4『平成26年度、事業報告について』説明をお願い致します。

○ 事務局（仲村）

～資料1・資料2・資料3の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見はございますか？

○ 菊池委員

自閉症協会の菊池と申します。よろしくお願い致します。相談概要の（３）の相談支援・就労支援ですが、発達障害者支援センターのみで対応するのか、キャリアセンターと連携を図るのかをお伺いします。

○ 加瀬委員

発達障害者支援センター所長の加瀬と申します。よろしくお願い致します。就労支援はキャリアセンターだけではなく、障害者職業センターや就労移行支援事業所、サポートステーションなど様々な支援機関と協同でやっていく場合と、支援者複数と関わっていくことが難しいためセンターでの定期的な相談を続けていく場合とがございます。

○ 菊地委員

ありがとうございます。市内にはキャリアセンターだけでなく相談支援事業者はたくさんありますが、定期的に相談できる機会、情報も共有できるような仕組みがあるといいのではないかと考えていました。それがなされているということですね。学校も絡んでいますか。

○ 加瀬委員

学校とはそれほど絡んではおらず、その先の県立障害者高等技術専門校、大学や専門学校、普通高校とは連携をさせて頂いています。特別支援学校等では難しい方が卒業後にこちらの相談に来ることもあり、就労移行支援事業所等と連携を図りながら進めているのが現状です。

○ 菊池委員

人間不信になっていたり、自己肯定感が持てない子どもは立ち直るのにとても時間がかかります。そうなる前が大事だと思っているので、ペアレント・トレーニングはとてもありがたいと思っています。また就労で躓いた人をキャリアセンターや相談支援事業所と絡んで支援を行うことはとても大切だと思います。その前段階である学校とも連携を図り、先を見た指導がなされることが大事だと思います。教育機関と事業所がどう関わるかが大事だと思いますが先生方いかがでしょうか。

○ 杉田座長

ぜひ教育関係の方、ご意見ありましたらお願い致します。

○ 小林委員

千葉市立養護学校の小林です。学校も卒業後３年間はフォローアップを行っています。子どもに関しての情報も３年経ったら廃棄ということになります。確かに連携を取りながら継続的に見ていければとは思いますが。

○ 菊池委員

就職させればそれでOKではなく、その子の人生をどう見るかがポイントです。その子の将来像を見ながら学校でも指導していくことがポイントだと思います。自己肯定感を持つこと、人を信用する気持ちを失ってほしくはありません。そこは教育が担っている重要なところだと思っています。就労をする人だけではなく、福祉を使う子ども達も含め、どういう子になっていくかは教育が握っていると思っています。そこに支援センターがどう関わっていけるかもポイントだと思います。

○ 小林委員

個別の教育支援計画、就労移行支援計画は、実際には機能していない部分があると思います。教育支援計画に発達障害者支援センターが絡めば継続して子ども達を見守っていけるだろうと思います。現在、3年生は卒業後に向けて教育支援計画、就労移行支援計画を基にしてどのような支援が必要なのかを親御さんと相談しております。

○ 加瀬委員

学校卒業後、ある程度の期間でフォローアップが終わってしまって困ると相談に来られる方は多くいらっしゃいます。教育機関と卒業する前に連携を取ることに關しては教育委員会等と相談させて頂きながら、発達障害者支援センターとしてできること、地域の支援機関に役割分担することの検討を重ねていきたいと思っています。

○ 久保田（ゆ）委員

千葉発達障害児者親の会コスモの久保田と申します。よろしくお願い致します。発達障害者支援センターに来られる就労に失敗した方のうち、養護学校や特別支援学校を卒業の方と普通高校、商業高校、工業高校などの職業高校を出た方との割合はどうなっていますか。職業高校などは職業訓練やキャリア教育の必要性をわかっているとは思いますが、普通高校は大学や専門学校に行く勉強しかないと思います。そういった学校への働きかけが必要となっていくと思います。

○ 加瀬委員

割合に關しては手元に資料がございませんので何ともお伝えできませんが、特別支援学校や特別支援学級に在学中の方よりは、普通高校や大学、大学院等を卒業され、特に特別支援教育等を受けていない方のご相談の方がはるかに多いです。

普通高校からもご相談はお受けしております。実際に診断の出ている方、可能性のある方もいらっしゃいました。進学だけでなく就労や他の支援機関につなげたいと考えている高校はまだ少ないかもしれませんが取り組んでいる高校もございます。

○ 久保田（ゆ）委員

ありがとうございました。

○ 杉田座長

他にいかがですか。時間も迫っておりますので次に進ませて頂きます。『平成27年度事業経過報告』の説明をお願い致します。

○ 事務局（仲村）

～資料4の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございます。ただいまの報告につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願い致します。

○ 久保田（ゆ）委員

子育てアシストやペアレント・トレーニングは子育て世代にとっては非常にありがたいです。自分の子は中学生ですが、幼稚園、小学生の時にあったらよかったなと思いますので、ぜひ広げていって頂きたい事業だと思います。

最近、浦安で佐賀県の教育家の服巻智子さんの講演がありました。「1歳半までに発達障害かどうか9割見つけましょう」と取り組んでおり、早期療育を行うと目が合うようになると聞きました。私の子は幼稚園の年長で初めて相談を勧められ、児童相談所に伺いました。その時にはもっと早く言ってくれば良かったのにと思いました。

1歳半健診の時に子どもの反応が薄いと相談をしました。耳が聞こえないのではと思い、耳の検査はしてもらいましたが、「耳は問題ありません」で終わってしまいました。わかる人が見ればわかるはずだと知ってしまったからには、千葉市でも保育士がもっと勉強して頂けたらと思います。

目が合わないというのは生活しづらく、話をしてもその人の方を見ずによその方を見て話しているので誰に話しているかわからないことがあります。「え！なあに？」って言われると、変なことを言ったのではないかと勘違いして自信を失くしてしまいます。早期に見つけて療育すれば目が合わせられるようになると知ってしまったので、保健師、保育関係の方に勉強して頂けたらと思いました。

○ 杉田座長

1つ問題点があげられました。千葉市は保健師が最初に窓口になることが多いと思いますがいかがですか。

○ 金田委員

健康支援課の母子保健事業を担当している金田と申します。早く保護者の方に気付いて頂き、対応の仕方などを一緒に考えていけたらと思っており、昨年度から1歳半健診の問診票を改定致しました。M-CHATの要素を加えて、発達障害の早期発見、気づきにつながるような取り組みを始めております。

健診で項目に少し当てはまるようなお子さんにつきましては、単発ですが心理士、保育士、保健師が事後支援教室を各区保健福祉センターで行っています。ただ1歳半という年齢なので、保護者の方も「個人差なのでゆっくり見たいんです」と言う方も多い現状があります。項目にチェックが付くお子さんが500名ちょっといますが、支援教室につながるお子さんは100名ちょっとという現状があります。健診での伝え方、支援教室につながらない保護者の方への支援についても考えております。どうしても単発で終わってしまいますので、その後はどう地域の事業所や療育の専門機関につなげていくかを検証しているところです。

○ 野口委員

民間保育園協議会の野口です。保育士につきましてはここ4年位、重点的に必ず発達障害の研修を続けております。保育士だからできると保証はできませんが、向上に関しては積極的に取り組んでいることをご理解して頂きたいです。

保育園では長い子は朝7時から夜8時まで13時間いることになります。保育園、保育所の場合はたいてい気付きます。保護者の方に病院を勧めることは難しく、「3歳位まで様子を見ましょう」というやり取りが行われています。

私共は千葉市の子育て支援館も指定管理を受けてきぼーる6階で実施しております。こちらに臨床発達心理士2人おりますので、そこで相談をするなど対応は考えております。

○ 菊池委員

1歳半で気付いたお子さんをどうフォローするかが問題だと思います。その子がどうしたらどう変わっていくのか、専門機関のどこに行ったらどんなことをしてもらえて、どうもっていくのかを示されないと不安を与えるだけになってしまいます。見つけた子をどうフォローするかを先に検討していった方がいいと思います。保健福祉センターでのフォローが1回とのことですが、平日なのか土日なのかによって参加できる、できないがあると思います。そこをご検討頂ければと思います。また、子育てアシストも年中児対象で良いのかもご検討頂けたらと思います。

服巻先生は3歳までに目が合う指導をしています。服巻先生の講演会を発達障害者支援センターお願いしたいと思います。ご検討をよろしくお願い致します。

○ 野口委員

講師の派遣ですが、私共も研修費用は必ずプールしておりますのでリンクすればできるかと思います。保育士を中心に呼べるのが大きなメリットになっていくと思います。保育士も勉強したいが非常に忙しくて機会が取れないという状況もありますが、1人でも増えればと思っています。ご検討頂ければと思います。

○ 杉田座長

他にいかがですか。

○ 菊池委員

資料に「他機関でペアレント・トレーニングを実施できる人材を育成し」とありますが、この意味がわからないので教えて下さい。

○ 加瀬委員

今まで発達障害者支援センター中心でペアレント・トレーニングを行ってきました。実際にペアレント・トレーニングの機会が少ない中で、保育士や保健師等が実施できるような体制作り、支援者育成をしたいと考えています。千葉市の支援を発達障害者支援センターだけでなく市全体として取り組んでいきたいということです。

○ 久保田（ゆ）委員

最近、コスモにも民間の就労移行支援事業所から売り込みがあります。話を聞いてみるとあまりにも発達障害について知らない所が多いと思います。そういう所にご本人が行き就労がうまくいかないと悩んでいたらすごくかわいそうなことだなと思います。事業所の把握はどこかで行っているものなののでしょうか。

○ 加瀬委員

就労移行支援事業所自体は毎月のようにできております。千葉市が把握していると思います。

○ 柏原課長

千葉市障害者自立支援課でございます。障害福祉サービス事業所の認可は障害福祉サービス課が行っております。障害者自立支援法から三障害共通になりました。元の母体によって知的障害者については非常に詳しい所もあれば、精神障害者の方が詳しいなど様々であり、そこまでは障害福祉サービス課は把握できていないと思います。

就労移行支援事業所のみならず企業の人事担当者も発達障害については悩んでいる方も多いと思っております。当課には障害者の就労のコーディネートを行うプロモート事業というものがあります。プロモートから聞く声はミスマッチが多いということです。発達障害に限らず障害には個性があると考えております。事業所に勉強して頂き、それぞれの障害に適応した、家庭も含めた支援を行って一般就労につなげていきます。

更にプロモート事業を通じて企業の方に、特に平成30年度が精神障害者の障害者雇用率算定にもなりますので、そういった機会を利用して企業への理解はできるだけ深めていきたいと考えております。

またマッチング、最初の就職の入り口でそんなはずではなかったとならないように、平成26年度から障害者の職場実習事業を開始してございます。就職ただけで終わってしまうことがないようにこちらから委託訓練費を支給し、ご本人の要望と企業の要望をマッチングした上で、2週間から約1ヶ月のプログラムを双方の合意で作ります。それを行って頂き、双方がそのレベルに達したとなったら就職に結び付けていきます。就職前

提ではなく実習として相互理解し合う事業を行わせて頂いております。

特に発達障害、精神障害に関しては助走期間が非常に大切だと思っています。ミスマッチをなくし、学校を卒業して15年、20年経った方を就職にもう一度結びつけるためにもこのプロモート事業を充実して参りたいと思っています。

○ 杉田座長

ありがとうございました。公的なところが行って頂かなければならないこともあると思います。ぜひ千葉市でお願いしたいと思います。

ペアレント・トレーニングも行える人材の教育を充実させないといけないと思います。1人の人間が大きくなっていく各段階では関与する機関も違ってくるとは思います。1歳半健診の重要性は私も小児科医として認めますが、こうすれば早く良くなりますといった夢のような話だけで終わらせてはいけないと思っています。

続きまして（3）千葉市発達障害等に関する巡回相談事業についての説明をお願い致します。

○ 事務局（森）

～資料5の説明～

○ 杉田座長

巡回相談事業に関しましてご意見はいかがでしょうか。全般に渡りましての質問やコメントもありましたらぜひご発言をお願い致します。

○ 菊池委員

児童発達支援についてもとても大切だと思いますが大宮学園しかありません。大宮学園が各区なりせめて2区に1つなり増える予定はないでしょうか。

○ 柏原課長

これも障害福祉サービス課の事業にあたりますが、今現在、市全体の計画事業ではそういった位置付けはございません。特に通園型の拡充、別区配置は難しい現状でございます。

○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。

○ 小林委員

市立養護学校の小林です。相談機関が色々あり、どこに行けばいいか迷われる保護者がいらっしゃると思います。千葉市には教育センター、養護教育センター、児童相談所等、他にもたくさん相談を受けられる機関があります。Linkは総合的に受けて振り分け

を行うことを目的に作られてと思いますがうまく機能しているのでしょうか。

全ての相談を発達障害者支援センターで受けていると非常に多くて大変だと思います。相談機関は千葉市内にたくさんあるので、発達障害に関しては一括して受けて、内容によってより専門性のある機関につなぐという体制作りが進められるとよいかなと思います。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。発達障害者支援センターでは次の機関にバトンタッチしながら行っているのが現状です。現実的には一括で受けるのは難しいと思います。ご相談者の中には様々な機関から回って回って来られる方も多くいらっしゃいます。こちらでは一度お受けした方を次につなぐ時には軽い気持ちで伝えるということはありません。お話を伺い情報を確認し、場合によっては次の支援機関に連絡することをご了解頂き、次の支援機関に状況を伝えるということも行っております。

○ 谷委員

千葉市養護教育センターの谷と申します。今年度の11月に養護教育センターが事務局となって特別支援連携会議を立ち上げました。千葉市の保健福祉局、こども未来局、教育委員会の3局12課、11機関が集まり特別支援に特化した連携会議を開いております。

千葉市では相談機関の道しるべというパンフレットがありますが、それと同じように特別支援に特化した相談機関の一覧の作成、アセスメントシートの作成を考えています。アセスメントシートは幼稚園、保育園から配っていけば、早期発見につながるのではないかと会議を進めており、できれば平成28年度の終わりには配れるよう目指しています。

○ 杉田座長

教育に関して、話題には出ませんでした。が学習障害も発達障害の1つですので教育側がどうされているお話し頂けますか。

○ 今関委員

千葉市のLD等通級指導教室の今関と申します。よろしくお願い致します。

LD等通級指導教室は小学校が6校、中学校が2校あります。児童数は小中合わせて153名おります。最近では行動面や情緒面で支援が必要なお子さん、ADHDや自閉傾向のあるお子さん、LDの読み書き障害のお子さんもあり入ってくるようになりました。

研修として通級に通っている保護者を対象に発達障害者支援センターの方からペアレント・トレーニングのさわりについてのお話を頂きました。先程から子ども達の自尊心を失くさないことが大切というお話がありましたが、子どもへの接し方について「25%ルールで良しにしましょう」などの具体的なお話を頂き、保護者の方からも「とてもリラックスして安心しました」というようなお話がありました。

働いている方や母子家庭の方など家庭を全体で支える必要があると感じております。今後、ペアレント・トレーニングを実施できる方が増えて、様々な機関で行って頂ける

とありがたいと思います。また働いている方もいるので、もしできたらお休みの時や年に複数回行って頂けるとありがたいと思います。無料で受けられるのは保護者にとってもありがたいと思いますので広めて頂ければと思います。よろしくお願い致します。

○ 杉田座長

ありがとうございました。

○ 岡田委員

こころの健康センターの岡田と申します。先程から相談の早い段階で専門の所につながってというお話が出ておりますが、こころの健康センターでも発達障害の方の相談があります。相談される方が相談すべき所を知らないということもありますが、わかっているけれども色々な思いがあって行けないという方もずいぶん多くいらっしゃると思います。学校のことからこそ学校関係に相談できない、発達障害と診断を受けていて障害者手帳を持っていたても発達障害者支援センターには相談に行きたくはないという相談があったりします。明らかに発達障害者支援センターにつながった方がいい方であっても二度三度話を聞き、「やっぱり発達障害者支援センターだよね」ということで連絡して受け止めて頂いた方も何人かいらっしゃいます。

対象となる方に情報が伝わるのはもちろん必要ですが、その方が相談しやすい所に相談に行くということもあるかと思います。療育や障害の名前がつかない一般の相談する窓口には、関係機関の名前は知っていても具体的にどういう支援をしてくれるかを深く知らない職員や担当者もいると思います。そういった所に相談に行った時に闇雲に振るのではなく、ある程度キャッチした上で「やっぱりあなたが行くべき所はここだよ」と手渡しの連携ができるようになっていくといいのではないかと感じております。

○ 杉田座長

ありがとうございました。他によろしいでしょうか。

今日は事例の方も用意して頂いておりますので、残された時間で事例検討に入らせて頂きたいですがよろしいでしょうか。

○ 加瀬委員

はい。ご説明致します。時間も限られていますので、特に皆様のご意見を頂きたいのは事例2になります。事例1に関しましては安定したと思ったら課題が浮き彫りになり、継続支援が必要になったケースです。

事例2に関しては、色々やってはみるものの対症療法的な対応が中心になってしまっており、どのように対応したら良いのか悩んでいるケースです。

委員の皆様からご意見、ご感想等を頂ければと思います。簡単ですが説明は以上です。

【事例1】

○総括

- ・高校生と比較的遅い時期に発達障害と診断されたケースであり、母も相談開始当初は本人を拒否していたために支援は難航すると思われた。
- ・視覚支援や具体的に説明するといった基本的な支援を行うことで生活面が大幅に改善された。本人自身も自分がどんなタイプかを理解し、自分でも工夫をするようになったことが改善につながったと思われる。
- ・特例子会社に就職もでき安定しているかに思えたが、慣れてきた頃に問題となる行動が起きている。安定した生活を送るためには環境調整や支援者育成、自己理解を深める支援等が必要であり、中長期的な継続した支援が必要であると思われる。

【事例2】

○課題

- ・対症療法的な対応になっており、次々と現れる行動に母が疲弊している。
- ・卒業後、本人は一般就労を希望している。「障害者ではない」と言っており、障害福祉サービスの利用を拒否する可能性が高い。卒業後の所属機関をどうするか。
(イメージすることが難しいため利用を拒否している可能性もある。実際に見てもらうことで利用できるのではないかとと思われるが、本人の「行かない」の言葉に母が利用をためらってしまう。)

○ 加瀬委員

はい、ありがとうございます。皆様からご意見や要望を頂きまして、今後の発達障害者支援に活かしていきたいと思います。では座長にお返しします。

○ 杉田座長

皆さん、ご意見ありがとうございました。

診断に関してですが、発達障害は医学的な疾患概念もかなり変わってきております。精神医学の診断体系もかなり変わってきている領域であり、医療側も診断の精度を上げる努力が必要な状況です。医療側も考えていきますが、ハンティングではありませんので、ただ早期に診断をつければいいということではなく、また診断自体が複雑な要因もあるということはわかって頂きたい。

現状、様々な機関が関わっているのは事実で、ただ日本特有の縦割り社会の中で、管轄部署が違います。横須賀がうまくいっているかどうかは知りませんが、子ども支援センターのように総合的にできるものもぜひ千葉市で作って頂きたいと思います。療育センター1つでは足りるはずがありません。ぜひ今までのリソースはうまく活用しながらも、増えている発達障害に対してやらなければならないことはたくさんあると思いますので、千葉市の公的な方からも支援をして頂ければと思います。

その他ですが、事務局から何かございますか。

○ 事務局（上田）

事務局より1点お知らせがございます。本日の議事録についてですが、杉田座長に内容を確認していただいた上でご署名いただき、公開することとしてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。事務局からは以上です。

○ 杉田座長

ではなければこれで終了させていただきます。本日はありがとうございました。

○ 事務局（上田）

委員の皆様方、長時間にわたりご議論頂きありがとうございました。以上をもちまして、第9回千葉市発達障害者支援連絡協議会を終了させていただきます。

本日は大変お疲れ様でございました。